

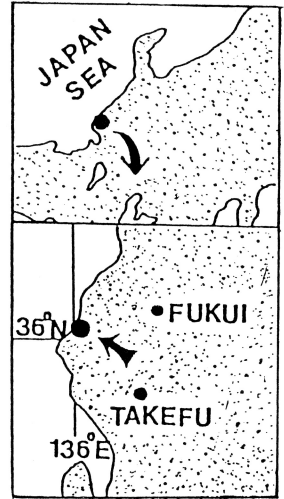
福井県越廼村の中新世哺乳動物足跡化石

安野 敏勝*

Early-Middle Miocene (Kunimi Formation) Foot Prints of Mammals from Koshino Village, Fukui Prefecture, Central Japan

Toshikatsu YASUNO*

福井県越廼村に分布する中新世前期から中期にかけての第三系（国見累層下部）から、2地点の複数層準より大型哺乳動物の足跡化石が発見された。印跡動物はその形状から偶蹄類に属し（安野，1997），若干の所属不明の大型哺乳動物の足跡も含む。なお，国見累層中部から長鼻類（富田・安野，1993）とシカ類（竹山，1989）及び“シカ類”上顎第1大臼歯が（未公表），上位の荒谷累層からイノシシ類の化石が産出している（福井県立博物館，1986）。日本列島の中新世の哺乳動物の足跡化石は，これまでに2例知られている。岐阜県美濃加茂盆地の奇蹄類足跡（美濃加茂市教育委員会，1995）及び北西部九州の偶蹄類足跡である（姜ほか，1997）。越廼村第1地点の足跡は，乾裂痕のある頁岩層に重なる炭質頁岩層の上から踏み込んでいる。支持層が硬く，降雨後のグラウンドに記されたような足印で，保存状態は良好である。副蹄印が明瞭に保存されない特徴からは，印跡動物はシカ類に近いものと考えられる。第2地点では，地層面の下面が露出し，偶蹄類は厚さ約10cmの垂炭層ないし炭質頁岩層の上から踏み込んでいる。しかし，直下の支持層がまだ軟らかく，かなり深くめり込んだ状態のものが多いこと，また粗粒堆積物が足跡の凹部を埋めており，足跡化石は第1地点のものとは形状がやや異なる。なお，偶蹄類の他に長鼻類の可能性のある大きな円形あるいは長円形の所属不明のものが混じる。この詳細は追って報告する。



第1図 化石産地図

文 献

- 姜 忠男・大塚裕之・加藤敬史，1997：北西部九州の第三系佐世保・野島層群における脊椎動物の足跡化石群（予報）．日本古生物学会年会講演会予講集，38．
- 竹山憲市，1989：福井県の中新統国未累層より産出したシカ類化石．福井県立博物館紀要，No.3，9-21．
- 富田幸光・安野敏勝，1993：福井市西部の国見累層（中新世）より発見された長鼻類骨化石とその意義．金沢大学日本海域研究報告，No.25，35-45．

* 福井県立高志高等学校（〒910 福井市御幸2-25-8）

福井県立博物館，1986：第4回特別展日本海のおいたち—化石が語る一億年—。68pp.

美濃加茂市教育委員会，1995：美濃加茂盆地における中村累層の地層と化石—大型哺乳動物足跡化石と化石林調査報告書—。51pp.

安野敏勝，1997：福井県の国見累層（中新世）から発見された偶蹄類足印化石。日本地質学会第104年学術大会講演要旨，348.

第2図(②) 第1地点の偶蹄類足跡化石の上位約3mに露出する立木（直立樹幹）化石。立木化石はこの層準の地層断面に4本存在する。右下のスケールは10cmを示す。

第3図(③) 第1地点の偶蹄類足跡化石。歩行跡と走行跡が存在する。右下のスケールは10cmを示す。

第4図(④) 第2図の黒枠部分の拡大図。右側の足印は歩行跡の一部（右前足と右後足），左側の足印は走行跡の一部（右後足）である。左下のスケールは5cmを示す。

第5図(⑤) 第2地点の偶蹄類足跡化石。下側の地層面で，多数の足印の凹部を粗粒堆積物が埋めている。左上のスケールは5cmを示す。

第6図(⑥) 第2地点の大型哺乳類の足跡化石と推定されるもの（矢印）。厚さ約10cmの炭質層を踏み抜いている。長径は20～22cm，短径は25～30cmで，それぞれの跡は2足が重なっている可能性がある。詳細は調査中。

